

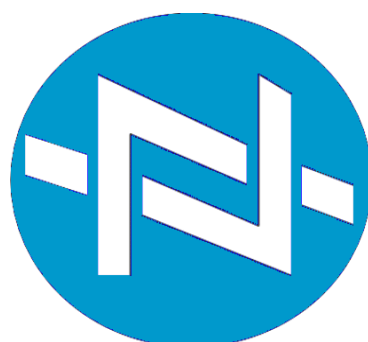
Environmental Management Report

環境経営レポート



野村産業株式会社

【対象期間 2024年05月～2025年04月】
【発行日 2025年07月18日】



■ 目次

| | |
|----------------------|--------|
| ● 会社概要 | P3～P4 |
| ● 対象範囲 | P3 |
| ● 環境経営方針 | P5 |
| ● 環境経営目標 | P5 |
| ● 実施体制 | P6 |
| ● 環境経営計画・取組内容 | P7 |
| ● 2024年度設備導入 | P8 |
| ● 緊急事態の対応及び訓練状況 | P9 |
| ● 環境経営目標の実績 | P10～11 |
| ● 環境関連法規の順守状況・訴訟等の有無 | P12 |
| ● 次年度の環境経営目標 | P13 |
| ● 次年度の環境経営計画 | P14 |
| ● 代表者による全体の評価と見直しの結果 | P14 |

■ 野村産業株式会社岩手工場会社概要

| 項目 | 内容 | |
|------------------|---------------------|--------------------------|
| 事業所名 | 野村産業株式会社 岩手工場 | |
| 所在地 | 本社 府中工場 | 〒183-046東京都府中市西原町1-13-3 |
| | 岩手工場 | 〒029-4204 岩手県奥州市前沢字本杉128 |
| | (倉庫) | 前沢字長檀58 |
| 代表者 | 執行役員工場長 齋藤 淳 | |
| 創業 | 昭和11年3月 | |
| 資本金 | 2,000万円 | |
| 社員数 | 57名 | |
| 環境管理責任者 及び連絡先 | 管理責任者 | 生産管理課 主任 石川 郁雄 |
| | TEL | 0197-56-3107 |
| | FAX | 0197-56-2619 |
| 事業内容 | 精密板金加工、試作、金型製作、機械加工 | |
| 車両保有台数 | 10 tトラック：1台 | |
| | 4 tトラック：1台 | |
| | 営業車：2台 | |
| | フォークリフト：2台 | |
| 認証登録範囲 | 岩手工場 全事業活動 | |
| 売上げ | 約9.0億円 (岩手工場) | |

■ 主要設備

| 設備SE | 能力 | 台数 |
|-----------------|-----------------|----|
| シャーリング | 1200/2000mm | 2 |
| パンチ・レーザー複合機 | 1250×2500mm | 2 |
| レーザー加工機 | 4kw 1524×3048mm | 1 |
| CAD／CAM等 | — | 8 |
| 3Dバリ取り機（乾式） | サイト×1000mm | 1 |
| バリ取り機（湿式） | サイト×600mm | 1 |
| シートメタル洗淨機 | 最大ワーク幅1000mm | 1 |
| プレス | 300t～60t | 7 |
| セットプレス | 35t～30t | 3 |
| レベラーフィード | 3.2t×420mm | 1 |
| レベラー | 3.2t×600mm | 1 |
| NCプレスブレーキ（ベンダー） | 170t～60t | 8 |
| 追従機 | 2000mm | 1 |
| NCタッピング | 900x1800mm | 2 |
| テーブルスポット溶接機 | 80KVA | 1 |
| スポット溶接機 | 50KVA～8KVA | 9 |
| Yagレーザー溶接ロボット | 6KW | 1 |
| Yagレーザー溶接機 | 19kva | 1 |
| アルゴン溶接機 | 14.5KVA | 5 |
| 半自動（CO2）溶接機 | 7.6KVA | 4 |
| スタッド溶接機 | — | 3 |
| NCスタッド溶接機 | — | 1 |
| 多軸タップ | 22軸500x200mm | 2 |
| 卓上タップ | M2～M8 | 7 |
| かしめ機 | 0.75KW | 1 |
| ワイヤーカット放電加工機 | 350x500mm | 2 |
| 平面自動研削盤 | 500x900mm | 1 |
| マシニングセンター | テーブル2300mmと#40 | 2 |
| 汎用旋盤 | — | 2 |
| 汎用フライス盤 | 縦型、横型 | 4 |
| ラジアルボール盤 | 1000mm | 1 |
| 卓上ボール盤 | ～φ13 | 5 |
| 帯鋸盤 | 250x250mm | 1 |
| レーザーQC測定器 | 0.05mm | 1 |
| コンプレッサー | ～22kw | 4 |

■ 2024年度 岩手工場環境経営方針

1. 野村産業株式会社 岩手工場は、板金加工による金属製品の提供を通じ、社会に貢献する事を目指します。
2. 電気使用量、廃棄物の削減等を通じて、岩手工場の事業活動によって生じる環境負荷を低減していきます。また、これらの活動を通じて、お客様が安心して当社との取引を行える事を目指します。
3. エコアクション 2.1 の運用により、環境経営の継続的な改善を行います。
4. 製品含有化学物質管理等、事業活動に関わる環境関連法規等を遵守します。

制定 2007年7月1日
改定 2023年5月1日

野村産業株式会社 岩手工場
執行役員工場長 齋藤 淳

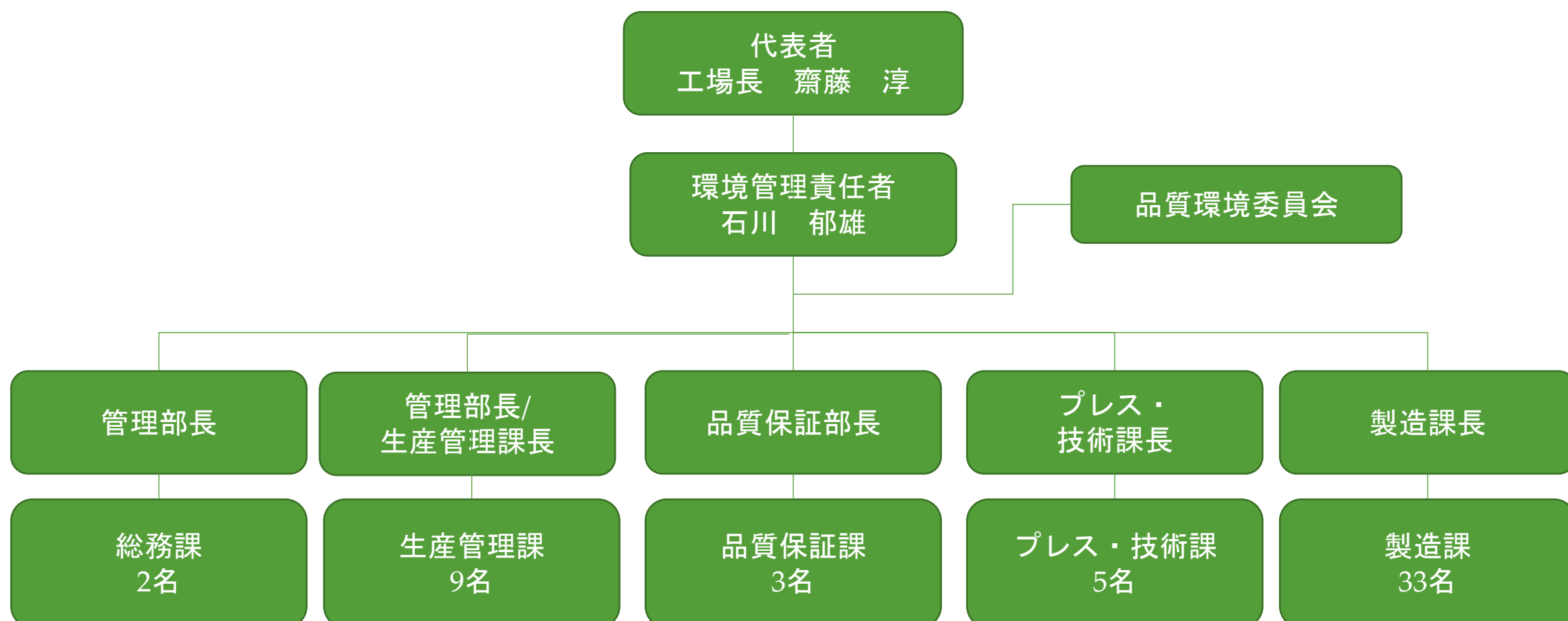
■ 2024年度 岩手工場環境経営目標

1. 温室効果ガス排出量削減（売上原単位）
スコープ1, 2（自社事業活動、購入エネルギー）において、
 - ・ 2013年度実績に対して、2030年度50%削減。
 - ・ 2013年度実績に対して、2024年度36%削減。
（電力CO2排出係数が2021年度と同等を前提）
2. 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量
（排出量、処分量は売上原単位）
 - ・ 過去3年間平均値に対して1%削減。
 - ・ 工程不良率の低減。2022年度実績への回復。
3. 環境及び労働安全上の緊急事態対応
 - ・ 教育訓練の実施（年1回）
4. その他
 - ・ 地域貢献；年1回。
 - ・ 水使用量の管理；節水励行とデータ監視。（対象は生活用水のみ）
 - ・ 有害化学物質の周知。化学物質管理責任者選任と自律管理検討開始。

制定 2007年7月1日
改定 2024年5月1日

野村産業株式会社 岩手工場
執行役員工場長 齋藤 淳

■ エコアクション21環境活動実施体制



■ 職務分掌

| 役割 | 担当者 | 職務（責任・権限） |
|-------------|----------------|--|
| 代表者 | 工場長 齋藤 淳 | ①環境経営方針の制定。 ②環境管理責任者を任命する。 ③環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しをする。 ④取り組みに対する資源を用意する。 |
| 環境管理責任者 | 生産管理課 石川 郁雄 | ①代表者に代わってシステムを構築し、運用する。 ②代表者に結果を報告する。 |
| 品質環境委員会 | 委員 | 環境活動計画における問題点の協議 |
| 部門責任者 | 各担当部課長 | 部門内において ①省資源、省エネ、節水を奨励・実施する ②EA21の目標達成の取組を推進し、チェックをし、環境管理者の了承の下、必要な是正処置・改善を行う ③公害防止、緊急事態への予防措置を行う |
| コミュニケーション窓口 | 環境管理責任者 | ①地域住民、関連機関からの苦情等の窓口業務を行う。 ②苦情への対策・予防処置策定を行い、代表者の承認を受け関係者に実施を指示し、経過・結果の報告を受け改善・定着を図る。 |
| 社員 | L D ・ 係員 | ①部門責任者の下、省資源、省エネ、節水に努める。 ②EA21取組に関する教育訓練を受ける。 ③改善提案を行なう。 |

■ 環境経営計画

◆ 温室効果ガス削減

- ・設備更新時はエコ型新設備の入れ替え
- ・エアコンの適切な温度管理
- ・休み時間の消灯、不要な照明はこまめに消灯
- ・電源不要時の電源遮断
- ・エコ運転の励行

◆ 廃棄物の削減

- ・分別による再資源化
- ・裏紙使用の推進
- ・紙・段ボールのリサイクルの推進

◆ 水使用量の維持管理

- ・節水の徹底

◆ 製品サービス

- ・工程不良率の削減

◆ 資質教育

- ・資質向上の教育

◆ 地域貢献

- ・工場周辺歩道の清掃

■ 取組内容



👉 ◆ 工場周辺の歩道清掃

- ・地域貢献活動の一環として、工場周辺の歩道の清掃活動を実施しました。
- ・今後も定期的な清掃活動を通じて、美しい地域環境維持に努めます。

◆ グリーンカーテン👉

- ・昨年に引き続き夏場の節電対策として、建物の温度上昇抑制、省エネのため、グリーンカーテンの育成を行いました。
- ・収穫されたゴーヤは希望する従業員に配布し、それぞれの家庭の食卓に並びました。



◆ 2024年度設備導入



👉 ◆ シートメタル洗浄機

- ・洗浄に水道水のみを使用し人と環境に配慮。
- ・手作業による洗浄と比較して、作業時間の短縮と安定した品質を維持。

◆ ワイヤー加工機更新 👉

- ・府中工場と岩手工場に分散していたワイヤー加工の業務を岩手工場に集約する事で、生産体制の最適化と効率向上。



👉 ◆ ポーダブル電源/ソーラーネル

- ・万一の停電発生時、照明の確保と通信機器の安定稼働が可能となり、従業員の安全と緊急時の連絡体制を維持。

◆ 緊急事態の対応及び訓練状況



👉 ◆ 消火器訓練

- ・今年度入社した社員＋安全衛生委員で訓練実施。
- ・従業員の中から地元消防団員として活躍されている方に、消火器の使い方についてご説明いただきました。

◆ 廃油漏洩対応訓練 👉

- ・地震により、廃油のドラム缶が転倒し、何らかの原因で廃油が漏洩した場合を想定し、訓練を実施しました。
- ・土嚢による廃油の塞き止めとオイルシートで廃油回収の訓練実施しました。

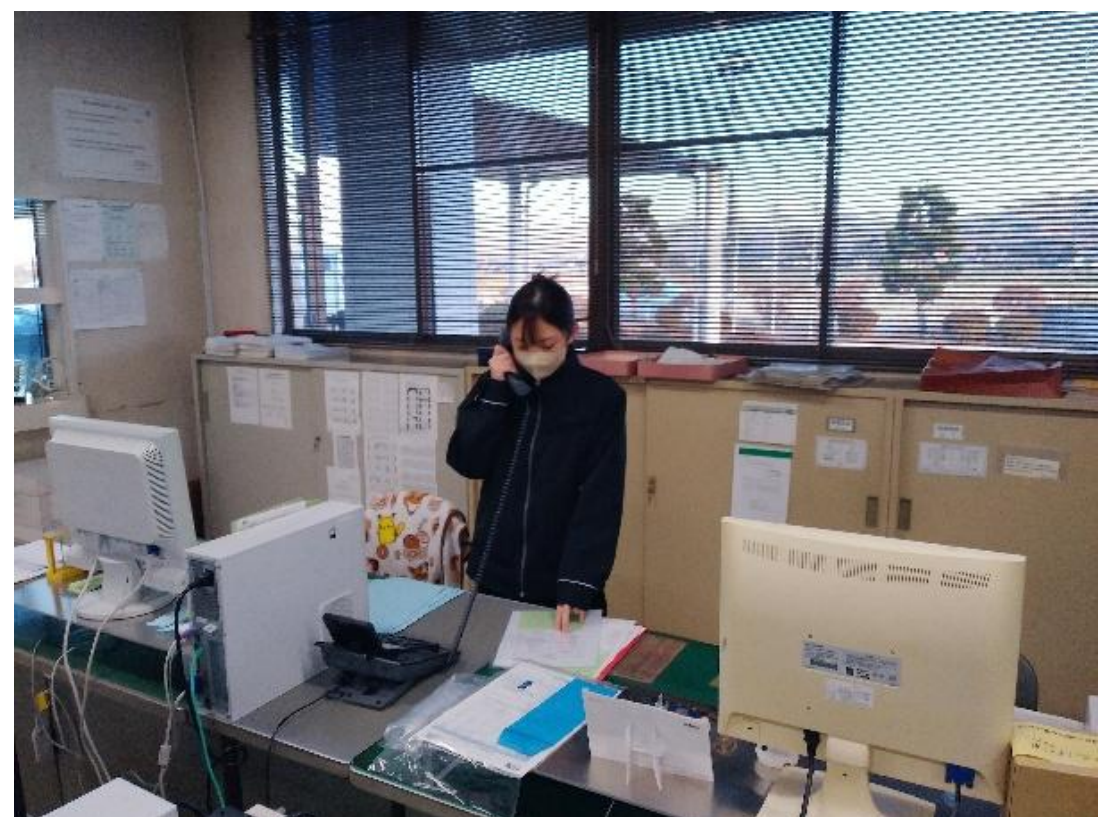


👉 ◆ 避難訓練

- ・地震発生を想定し、避難訓練を実施しました。
- ・落下物等から頭を守り、避難を実施しました。

◆ 通報訓練 👉

- ・通報訓練の内容
住所と会社名
何から出火したのか
初期消火はしているか
従業員は避難しているか
従業員は何名か
通報者名、電話番号

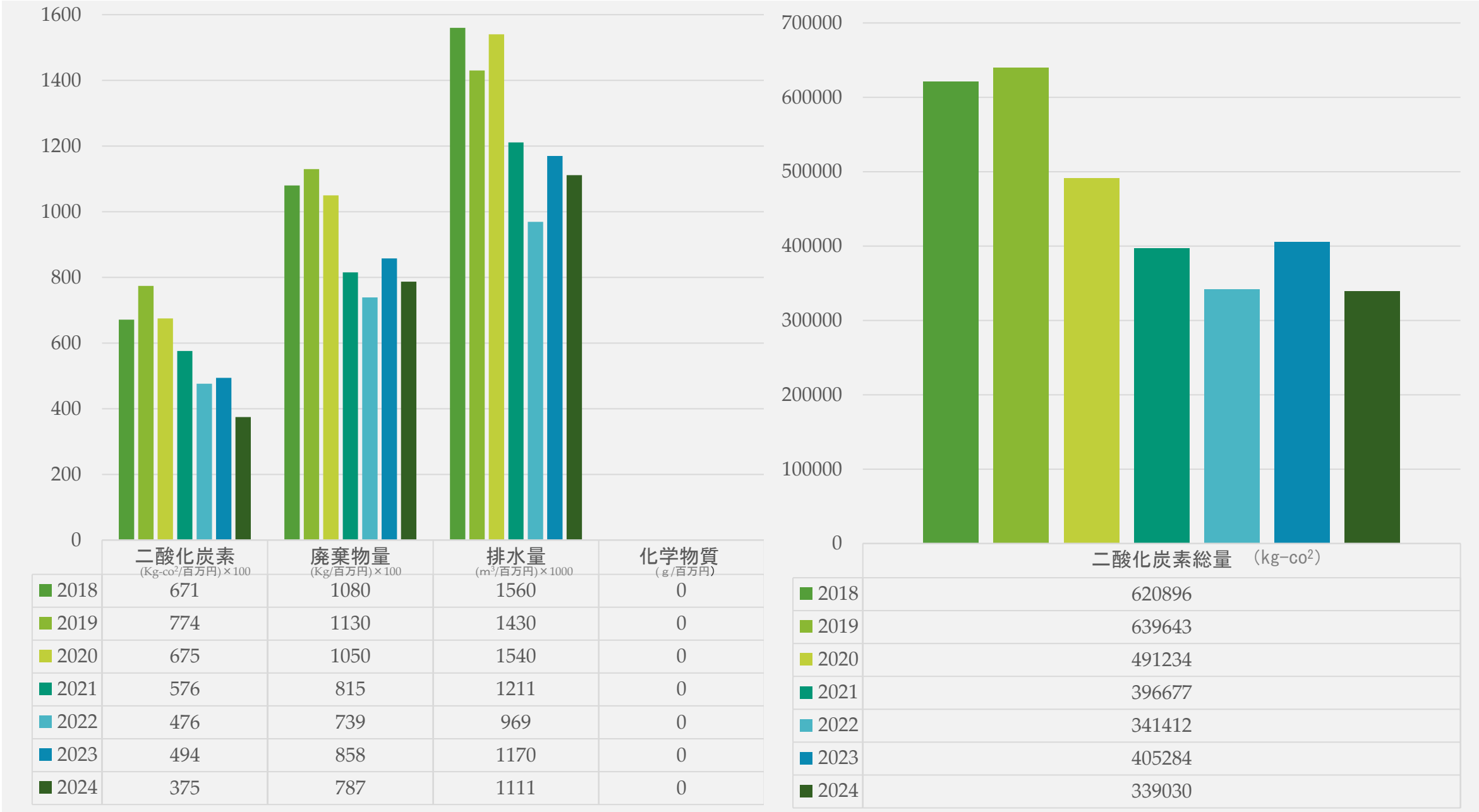


環境経営目標の実績

2024年度実績

| 2024年度実績 | | | | | | | |
|------------------|--|------------------|-------|------------------|-------------|--------|----|
| | | 基準年度 | 2024年 | | | | 評価 |
| | | 2013 | 目標 | 実績 | 達成率 %増減 | | |
| 温室効果ガス 排出量 ※1 | K g -Co ² /百万円 (売上げ高原単位) | 926 | 593 | 353.27 | 136.73 | ○ | |
| 廃棄物排出量 | K g /百万円 (売上げ高原単位) | 9.83 | 9.53 | 7.63 | 120.22 | ○ | |
| 水使用量 | 90L/人・日 | データ 管理 | 継続 | 継続 | データ 管理良好 | ○ | |
| 製品サービス | % | 年間の結果をみて、品質目標と連動 | 上期 | 2022年度の レベル復帰 | 161.88増 | -47.46 | × |
| | | | 下期 | 2023年度の レベル復帰 | 9.07減 | 109.07 | ○ |
| 資質教育 | 回 | 1 | 1 | 1 | 良好 | ○ | |
| 地域貢献 | 回 | 1 | 1 | 1 | 良好 | ○ | |

※1電力の排出係数は、大熊るるん電力2024年度調整後排出係数0.422kg-CO2/kWh及び0.340kg-CO2/kWh



※電力の排出係数は、大熊るるん電力2024年度調整後排出係数0.422kg-CO2/kWh及び0.340kg-CO2/kWh

◆温室効果ガス削減【目標達成】

- ・近年の設備の更新・太陽光発電パネル設置などの効果が現れている。
- ・引き続き、温室効果ガス排出の抑制に取り組んでいきます。

◆廃棄物の削減【目標達成】

- ・引き続き、分別を行い再資源化と紙・段ボールのリサイクルを行います。

◆水使用量の維持管理【維持管理良好】

- ・従業員の節水意識の定着により、安定した水使用量を維持しております。
- ・手洗い時の節水を呼びかけるポスターの掲示し、節水に関する意識啓発を行っております。
- ・今後も、継続して、データ管理を行います。

◆製品サービス【上期：目標達未達成/下期：目標達成】

- ・上期の工程内不良率が、当初の年間目標を大きく下回る結果でした。
年間の目標達成が困難であると判断し、下期の目標値を見直し、より現実的かつ達成可能な数値へと再設定しました。
- ・目標未達成の要因については、不良率の増加が要因か、あるいはバラツキの範囲内での変動かを見極めるため、今後分析を進める予定です。

◆資質教育【目標達成】

- ・継続して資質教育を行います。

◆地域貢献【目標達成】

- ・今年度は、地域社会への貢献活動の一環として、地元の中学生および高校生を対象とした工場見学を積極的に受け入れました。本活動は、将来を担う若者たちに製造業の現場を直接見て触れる機会を提供し、地域産業への理解を深めることを目的としています。工場見学では、当社の環境への取り組みについても説明し、持続可能な社会の実現に向けた意識啓発に努めました。
- ・今後も工場周辺の美化活動と工場見学の受け入れを積極的行います。

■ 環境関連法規の順守状況

| 適用される法規制 | 適用内容・概要 | 対象 | 遵守評価 |
|----------|------------------------|----------------------|------|
| 廃棄物処理法 | 産業物廃棄管理表（マニフェスト）の交付と保管 | 産業廃棄物 | ○ |
| 公害防止組織法 | 公害防止管理者の届出 | 液圧プレス、機械プレス、せん断機、圧縮機 | ※1 |
| 騒音規制法 | 騒音発生特定施設の届出 | 液圧プレス、機械プレス、せん断機、圧縮機 | ○ |
| | 規制基準の遵守 | | |
| 振動規制法 | 振動発生特定施設の届出 | 液圧プレス、機械プレス、圧縮機 | ○ |
| | 規制基準の遵守 | | |
| フロン排出抑制法 | フロン漏洩防止・簡易点検の実施 | 空調室外機、加工機チラー、冷水器 | ○ |
| 下水道法 | 使用開始届出 | | ○ |

関連機関より、法令違反の指摘はありません。

※1 公害防止管理者は外部委託中

■ 訴訟等の有無

関連機関及び住民
からの苦情・訴訟は
ありませんでした

| 苦情受けと措置結果 | | | | 工場長 | 課長 | 担当部門 | 作成 |
|------------------------|-------|-----|--------------------|-----|----|------|----|
| 受付年月日 | 発生元区分 | | 顧客 地域 行政 内部 その他 | | | | |
| 発生元 | 氏名 | 住所 | | | | | |
| | 電話 | FAX | メール | | | | |
| 受付者 役職氏名 | 転送順 | | | | | | |
| 苦情内容 | | | | | | | |
| 一次解答内容 | | | | | | | |
| 環境管理責任者見解 | | | | | | | |
| 関連部門長見解 | | | | | | | |
| 処理・措置が必要な場合の処理・措置内容と結果 | | | | | | | |
| 処理・措置結果に対する環境管理者見解 | | | | | | | |
| 発生元へ対応 | | | | | | | |
| 代表者の評価 | | | | | | | |

■ 次年度の環境経営目標

1. 温室効果ガス排出量削減（売上原単位）

- スコープ1，2（自社事業活動、購入エネルギー）において、
- ・2013年度実績に対して、2030年度50%削減。（926→463kg-CO₂/百万円）
- ・2013年度実績に対して、2025年度36%削減。（926→565kg-CO₂/百万円）

2. 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量（排出量、処分量は売上原単位）

- ・過去3年間平均値に対して1%削減。
- ・工程不良率の低減：過去2年間の実績を基に、減少傾向に設定

3. 環境及び労働安全上の緊急事態対応

- ・教育訓練の実施（年1回）

4. その他

- ・地域貢献；年1回。
- ・水使用量の管理；節水励行とデータ監視。（対象は生活用水のみ）
- ・有害化学物質の周知。化学物質管理者追加選任と自律管理検討開始。

制定 2007年7月1日

改定 2025年5月1日

野村産業株式会社 岩手工場
執行役員工場長 齋藤 淳

中期目標

| | | 基準値 | 2025 | 2026 | 2027 |
|---------------|--------------------------------------|------------------|---|---|---|
| 温室効果ガス 排出量 | Kg-CO ₂ /百万円 (売上げ高原単位) | 926 | 565.1 | 547.6 | 518.8 |
| 廃棄物排出量 | Kg/百万円 (売上げ高原単位) | 8.10 | 8.02 | 7.94 | 7.86 |
| 水使用量 | 90L/人・日 | データ 管理 | 継続 | 継続 | 継続 |
| 製品サービス | % | 年間の結果をみて、品質目標と連動 | 過去2年実績と設定目標を直線近似した際に、近似直線の傾きが有効数字3桁で減少傾向に設定 | 過去2年実績と設定目標を直線近似した際に、近似直線の傾きが有効数字3桁で減少傾向に設定 | 過去2年実績と設定目標を直線近似した際に、近似直線の傾きが有効数字3桁で減少傾向に設定 |
| 資質教育 | 回 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 地域貢献 | 回 | 1 | 1 | 1 | 1 |

■ 次年度の環境経営計画

■ 温室効果ガス削減

- ・設備更新時はエコ型新設備の入れ替え
- ・エアコンの適切な温度管理
- ・休み時間の消灯、不要な照明はコマめに消灯
- ・電源不要時の電源遮断
- ・エコ運転の励行

■ 廃棄物の削減

- ・分別による再資源化
- ・裏紙使用の推進
- ・紙・段ボールのリサイクルの推進

■ 水使用量の維持管理

- ・節水の徹底

■ 製品サービス

- ・工程不良率の削減

■ 資質教育

- ・資質向上の教育

■ 地域貢献

- ・工場周辺歩道の清掃
- ・地域学生の工場見学受け入れ

■ 代表者による全体の評価と見直しの結果

| 見直し項目 | 評価 | 見直し指示 |
|--------------------|--|--|
| 1.環境方針 | エコアクション21, 2017年版要求事項に沿っており、適正と考えます。 | CO2排出低減に関する欧米等の後退、地域紛争や対米関税見直しによる景気影響増が考えられますが、年度頭は従来通りとします。 |
| 2.環境目標 | 項目については適切であったと考えますが、特に行程不良率の目標値の設定方法に再考が必要でした。 | 4月中に妥当な設定が見つければ、それに基づき、間に合わない場合は簡易的に設定を行います。 |
| 3.環境活動計画及び環境経営システム | 中期計画の記載等、審査内容のフィードバックも行われており、適切と考えます。 | 各項目の推進担当をアイテムとリンクさせたく、検討させてください。 |
| 4 実施体制 | 実施体制に問題はなかったと考えます。 | 見直しの必要はありません。 |
| 5 その他 | 特になし。 | 特になし。 |
| 6 全体評価 | 工程不良率を除き結果は良好です。工程不良率の影響はマクロにはCO2排出量低減でカバーできていると考えますが、QMSでも同様の活動を行いますので、EMSでも目標は継続していきたいと思います。 | |